



今週の T2 経済レポート

2021年3月12日号

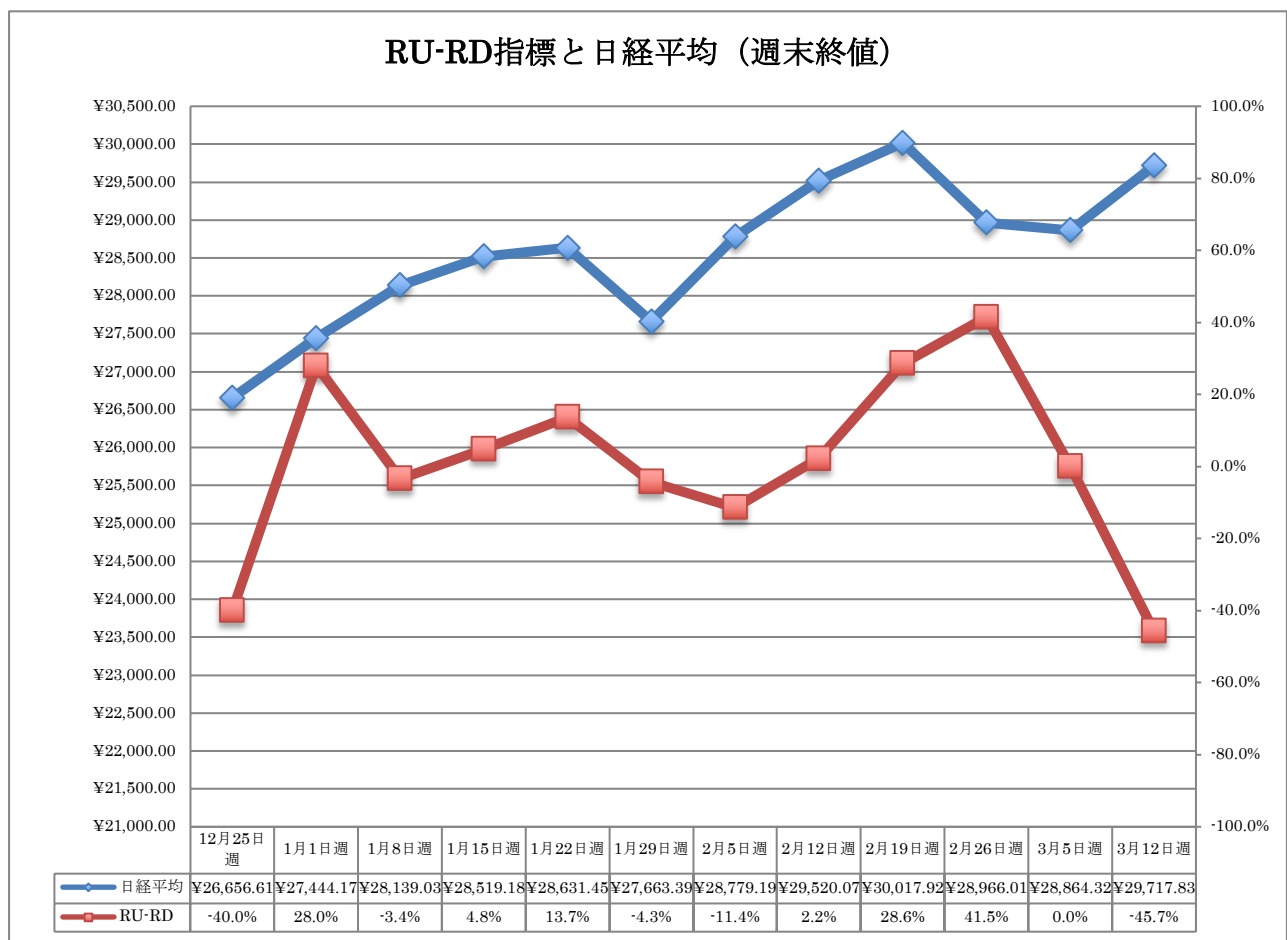
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来は急落調整に警戒する週となりそうです。今週(3/8~3/12)の相場を占う『RU-RD 指標』の2月26日週は-45.7%と5週間ぶりに一気に下限ゾーンに急落したことで本来は急落調整に警戒する週となりそうです。さらに、来週(3/15~3/19)の相場を占う3月5日週は-45.7%と2週連続の下限ゾーンで軟調な相場となりそうです。2週連続マイナス圏は1月11日週~18日週以来、約2ヶ月振りですが、2週連続の下限ゾーンは15年8月17日週~24日週以来、約5年半振り希な現象。当時は12年末から始まったアベノミクス相場が一旦、終了したタイミングで、16年6月の英ブレクジットまで下落率-29%の下落スタートとなりました。また、今週は日経平均のT2レーティングが昨年10月30日週以来、約4ヶ月振りに「売り転換」となりましたが、この10月30日週は今年2月に30年半振りの30714円高値まで上昇する起点となった時期にあたり、大きな転換点を迎えたことを示唆しているように思われます。先週、『今週末は米2月雇用統計、来週末は3月メジャーSQ算出日と相場を左右する大イベントを控えていることから投機筋の外国人が相場操縦で乱高下を仕掛ける可能性があります。仮に、今週反発した場合でも先行きを楽観視することは禁物で、その場合、逆に来週、再度急落調整の可能性が高まるためです。』と指摘したように、今週も外国人の相場操縦による乱高下には注意が必要な週です。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%と30週連続プラス圏継続ですが、上限ゾーンは5週間振りに下回りました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、ようやく明確に天井圏形成の段階に入ったことを示しています。5週間振りに上限ゾーンは途切れましたが、このまま下落してマイナス圏まで下落するのか、それとも再度、上限ゾーンを突破する動きが出てくるのか、要注目です。なぜなら、それが今回の相場の天井打ちのかたちとなるからです。

今週は、経済指標では、国内は、8日に1月景気動向指数、2月景気ウォッチャー調査、9日に1

月家計調査、10-12月期 GDP 改定値、11日に2月企業物価指数、12日に1-3月期法人企業景気予測調査、一方、海外では、10日に中国2月生産者物価指数、中国2月消費者物価指数、米国2月消費者物価指数(CPI)、米国2月財政収支、12日に米国2月生産者物価指数、ミシガン大消費者信頼感指数などが予定されています。市場はインフレ関連指標に特に注目しており、10日発表の米2月消費者物価コア指数(CPI)は前年比で+1.4%と1月と同水準にとどまる見通しですが、市場予想を上回った場合は波乱要因となりそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、12日にメジャーSQ、海外は、11日に欧州ECB定例理事会が注目されます。」とコメントしました。



2月19日週	2月26日週	3月5日週	3月12日週
¥30,017.92	¥28,966.01	¥28,864.32	¥29,717.83
28.6%	41.5%	0.0%	-45.7%

先週の日経平均は、高値29744円(3月12日)・安値28609円(3月9日)と推移、3週間振りに前半安・後半高の強いかたち。先週は、懸念されていた米10年債および30年債の入札が無難に終わったことや市場予想を下回った米消費者物価指数(CPI)の結果から米長期金利の上昇が落ち

着いたことに加え、週末の先物・オプション特別清算指数算出(メジャーSQ)による投機筋の買いもあり上値目標値を達成、週間ベースで+853 円高と 3 週間振りに大幅反発で終了しています(先週予告していた上値メド 29529 円～30119 円(+2%かい離)//下値メド 28302 円～27735 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、3 月 8 日に 29000 円大台替えで仕切り直しが入り、12 日に 29500 円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 4 日間、従って、16 日までに 30000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入っています。逆に、29000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、2 月 26 日に 29000 円大台割れで下落スタートとなりました。28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、30000 円大台替えで仕切り直しが入ります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、2 月 29000 円大台割れで下落スタートとなりました。28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、30000 円大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期↓、長期↓となり、短期が強含み、中長期が弱含みと方向感が逆になり、乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 32793 ドル(3 月 12 日)・安値 31512 ドル(3 月 8 日)と推移、3 週間振りに前半安・後半高の強いかたち。先週は、10 日発表の 2 月米消費者物価コア指数は市場予想を下回ったことや 11 日発表の今週分新規失業保険申請件数が予想以上に減少したこと、さらに 1.9 兆ドル規模の米追加経済対策法案が正式に成立したことから米国の景気回復への期待が高まり上値目標値を大幅に突破、週間ベースでは+1282 ドル高と 2 週連続の大幅高で史上最高値を更新して終了しています(先週予告していた上値メド 31461 ドル～32090 ドル(+2%かい離)//下値メド 30743 ドル～30128 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、3 月 5 日に 31500 ドル大台替えで仕切り直しが入り、8 日に 32000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入り、11 日に 32500 ドル大台替えでカウントダウン継続に 3 日間、従って、14 日(日曜日のため猶予で 15 日)までに 33000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、32000 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、3 月 8 日に 32000 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。33000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、31000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、3 月に 32000 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。33000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、31000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑、となり、短中長期が強含みとなり、上昇しやすいかたちに変化しました。

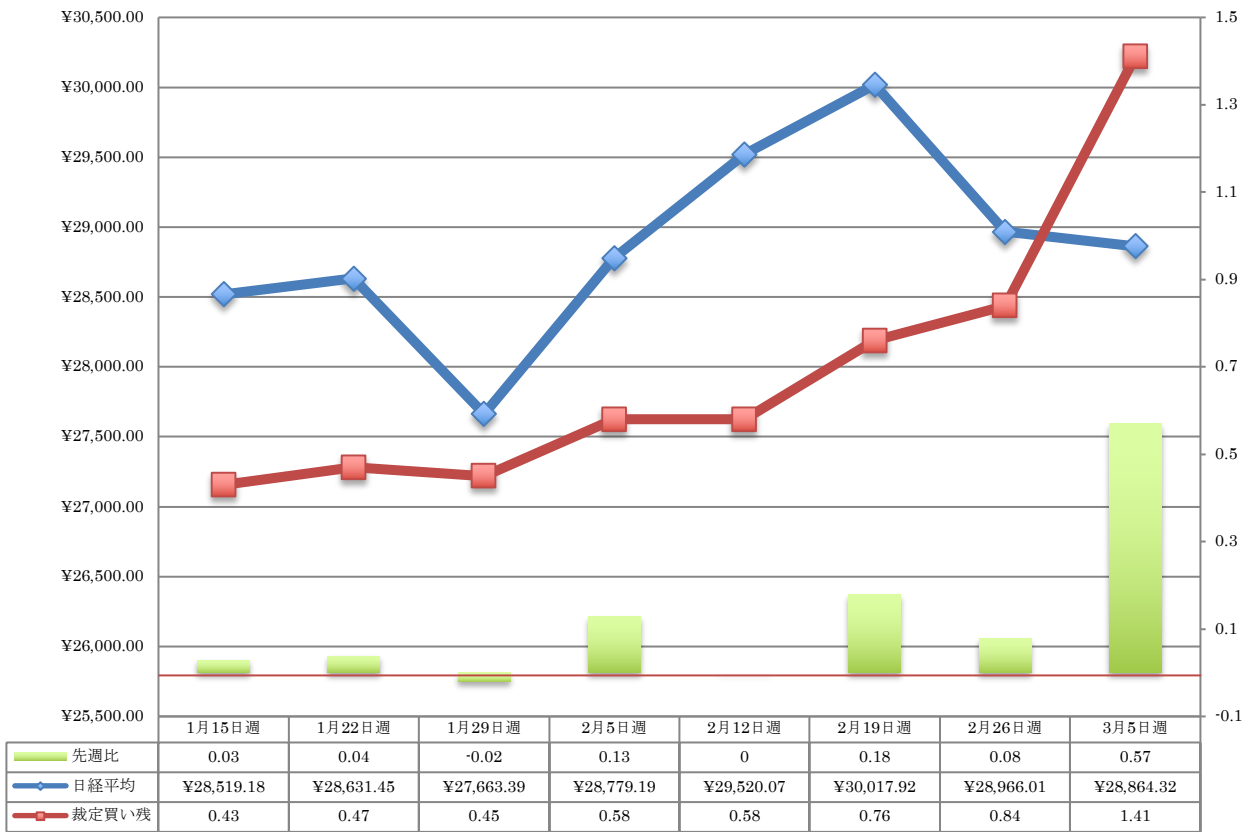
一方、為替は、ドル・円が 109.23 円～108.06 円(先週予告していた上値メド 108.42 円～109.50 円(+1%かい離)//下値メド 106.86 円～105.79 円(-1%かい離))と推移、上値目標値を達成し、4 週連続で円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.1989～1.1834(先週予告していた上値メド 1.2112～1.2233(+1%かい離)//下値メド 1.1949～1.1829(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、2 週連続のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、130.39 円～128.74 円(先週予告していた上値メド 130.30

円～131.60 円(+1%かい離)//下値メド 128.37 円～127.08 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、前の週と異なり、円安・ユーロ高。前の週のドル>円>ユーロからドル>ユーロ>円と変化しましたが、ドル高・ユーロ安は 2 週連続で続いています。米国の1.9 兆ドル規模の追加経済対策法案が正式に成立した一方、欧州中央銀行(ECB)が 3 月 11 日開催の理事会で、パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の買い入れを 4-6 月期に拡大することを決定したことが要因です。

<裁定買い残・裁定売り残>

3 週連続で増加。週間ベースで 5000 億円超の増加は 15 年 11 月 16 日週以来で、当時は 15 年の相場天井の「2 番天井」形成時に現れた稀な現象です。また、残高としては 19 年 3 月 25 日週以来の 1 兆 4000 億円台に急増となっています。一方、「裁定売り残」は、前の週比-432 億円の 1 兆 2021 億円と 3 週間振りに減少。「昨年 11 月 9 日～今年 1 月 4 日の 9 週間、昨年 11 月 30 日週の 1 週を除き実質 9 週間で 6950 億円減少と買い戻しが起きて、日経平均が 30 年半振りに 30000 円大台を回復した牽引役の一つとなっていました。」と指摘し、2 週連続増加後の増加ですが、転換点かどうかの見極めはもう少し今後の動向に注目です。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

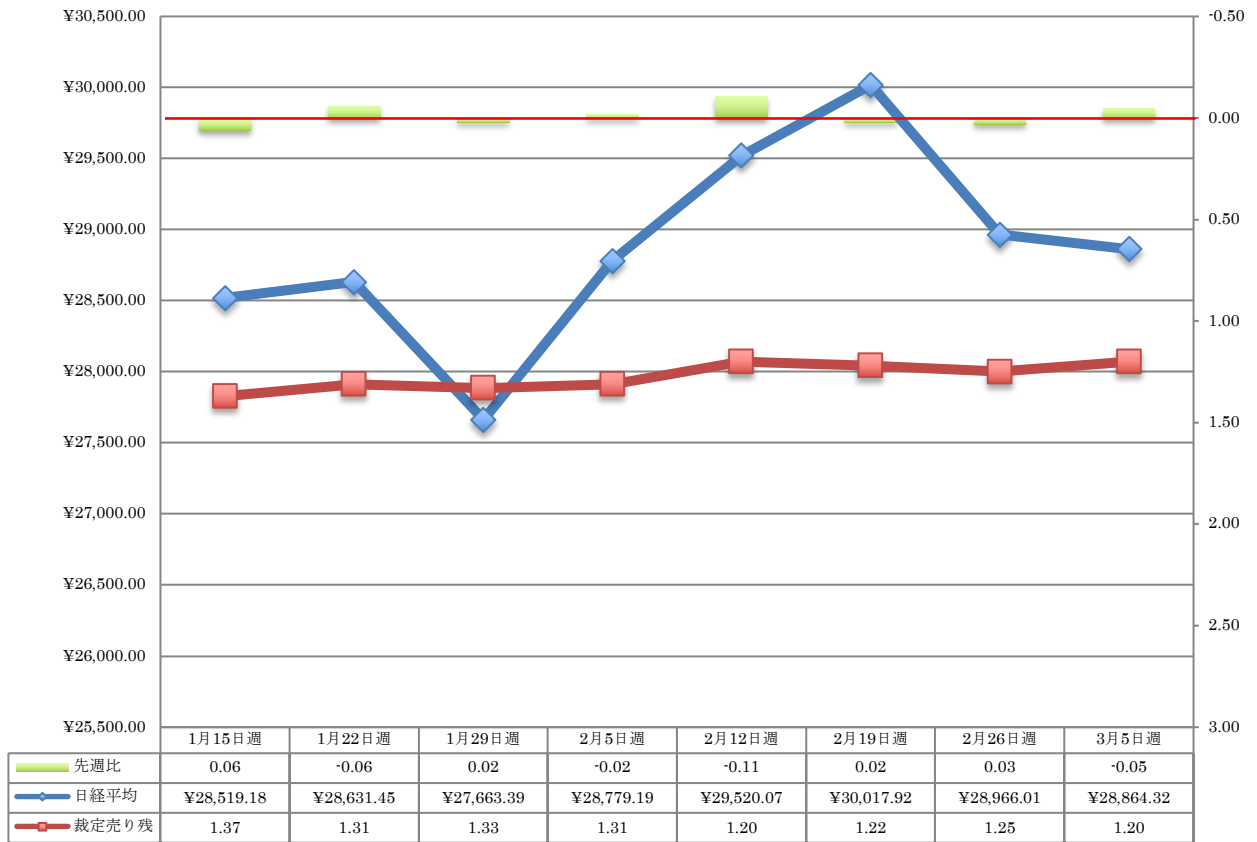
裁定買い残と先週比



2月12日週	2月19日週	2月26日週	3月5日週
¥29,520.07	¥30,017.92	¥28,966.01	¥28,864.32
0.58	0.76	0.84	1.41
0	0.18	0.08	0.57

単位:兆円

裁定売り残と先週比



2月12日週	2月19日週	2月26日週	3月5日週
¥29,520.07	¥30,017.92	¥28,966.01	¥28,864.32
1.20	1.22	1.25	1.20
-0.11	0.02	0.03	-0.05

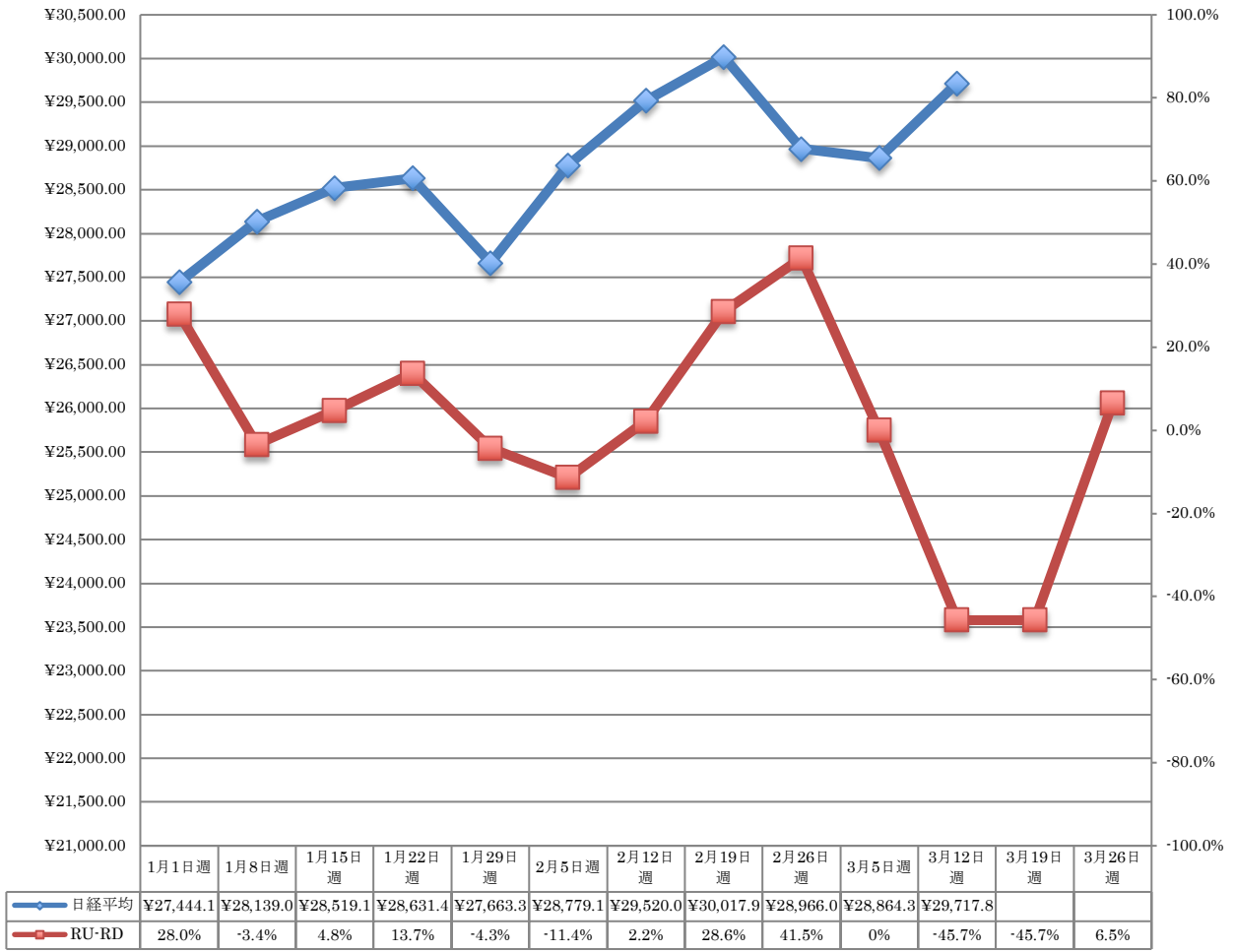
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は軟調相場の週となりそうです。今週(3/15~3/19)の相場を占う『RU-RD 指標』の3月5日週は-45.7%と2週連続の下限ゾーンで軟調な相場となりそうです。先々週、『2週連続マイナス圏は1月11日週~18日週以来、約2ヶ月振りですが、2週連続の下限ゾーンは15年8月17日週~24日週以来、約5年半振り希な現象。当時は12年末から始まったアベノミクス相場が一旦、終了したタイミングで、16年6月の英ブレクジットまで下落率-29%の下落スタートとなりました。また、今週は日経平均のT2レーティングが昨年10月30日週以来、約4ヶ月振りに「売り転換」となりましたが、この10月30日週は今年2月に30年半振りの30714円高値まで上昇する起点となった時期にあたり、大きな転換点を迎えたことを示唆しているように思われます。』と指摘し、先週、本来は「軟調相場の週」でしたが、3月メジャーSQ算出日を控えて投機筋の外国人が相場操縦で買い上げたかたちです。来週(3/22~3/26)の相場を占う3月12日週は+6.5%と3週間振りにプラス圏に浮上したことから本来なら急反発が期待される週ですが、今週、先週の反動安が起きなければ来週の急反発の可能性も低くなります。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%と31週連続プラス圏継続ですが、上限ゾーンは2週連続で下回りました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、ようやく明確に天井圏形成の段階に入ったことを示しています。先週、5週間振りに上限ゾーンは途切れましたが、このまま下落してマイナス圏まで下落するのか、それとも再度、上限ゾーンを突破して「2番天井」のかたちになるのか、いずれにしてもどのような天井圏形成になるかに要注目です。

今週は、経済指標では、国内は、15日に1月機械受注、17日に2月貿易収支、19日に2月全国消費者物価指数、一方、海外では、15日に中国2月鉱工業生産、中国2月小売売上高、中国2月固定資産投資、16日に米国2月小売売上高、米国2月鉱工業生産、17日に米国2月住宅着工件数、18日に米国3月フィラデルフィア連銀景気指数、などが予定されています。3月16日発表の2月小売売上高は大幅に改善した1月前月比+5.3%に対して反動減が予想されています。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、18日に日銀金融政策決定会合(~19日)、19日に黒田日銀総裁会見、一方、海外では、16日に米国FOMC(~17日)、17日に米国パウエルFRB議長会見、と日米中央銀行による金融政策決定会合が注目されます。3月16-17日に開催されるFOMC会合では、現行の金融政策の据え置きが決まる見込みです。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



3月5日週	3月12日週	3月19日週	3月26日週
¥28,864.32	¥29,717.83		
0.00%	-45.70%	-45.70%	6.50%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 29687 円～30280 円 (+2%かい離)

下値メモ 28124 円～27561 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 32562 ドル～33213 ドル (+2%かい離)

下値メモ 31427 ドル～30798 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 110.52 円～111.62 円 (+1%かい離)

下値メモ 108.47 円～107.38 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1937～1.2056 (+1%かい離)

下値メモ 1.1740～1.1622 (-1%かい離)

<ユーロ円>

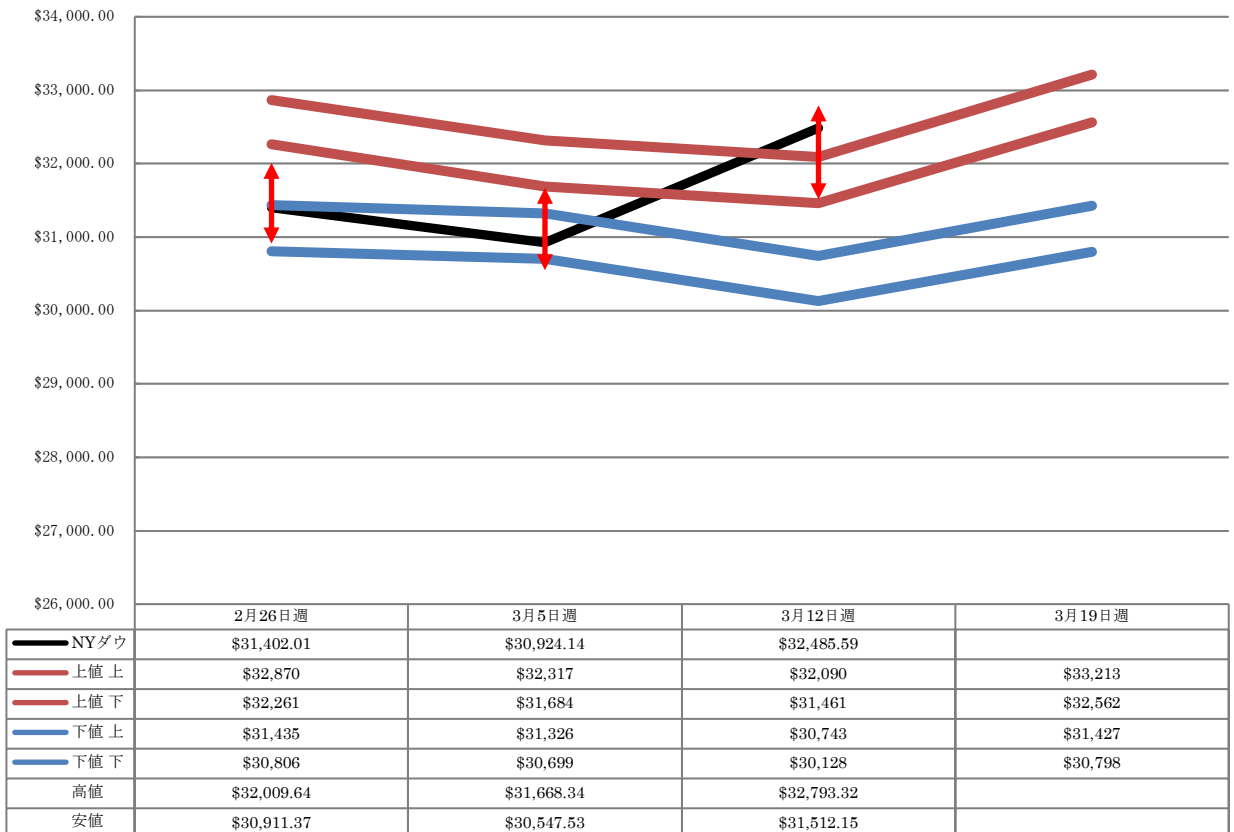
上値メモ 130.68 円～131.98 円 (+1%かい離)

下値メモ 128.64 円～127.35 円 (-1%かい離)

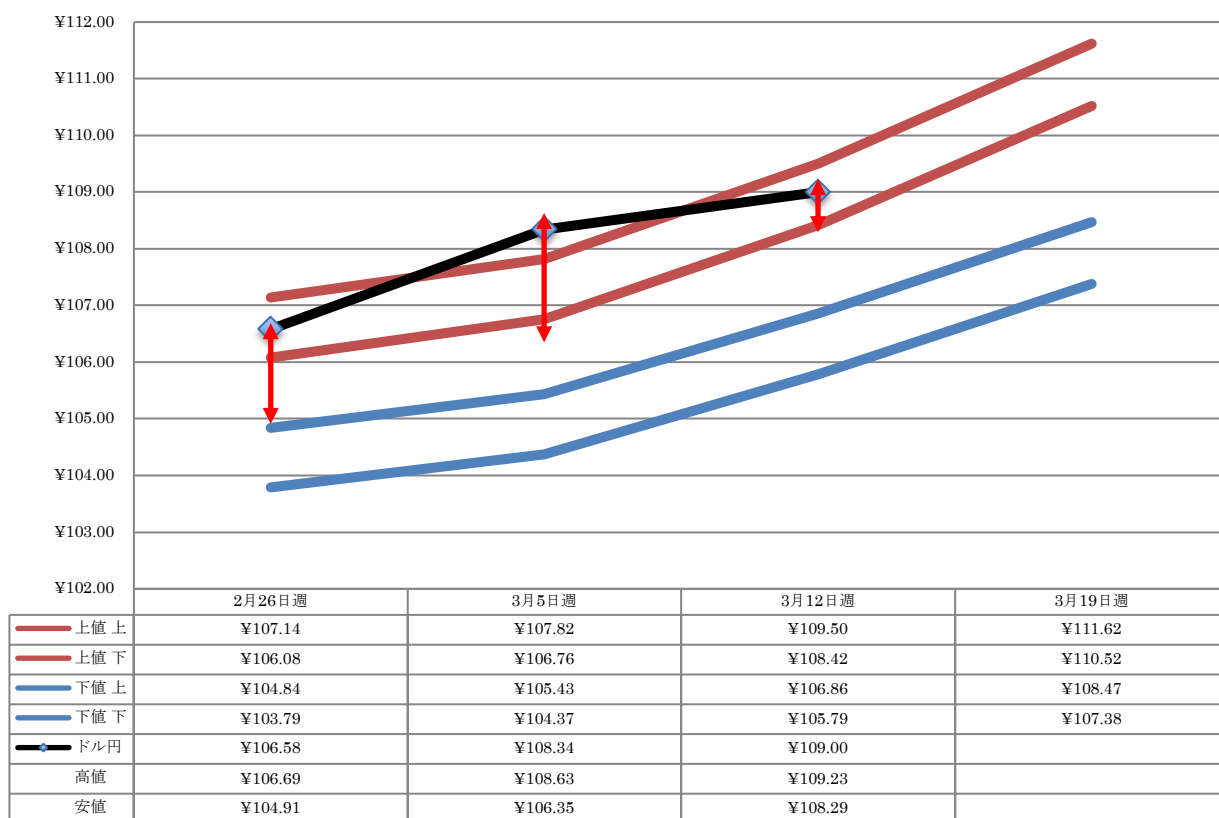
日経平均



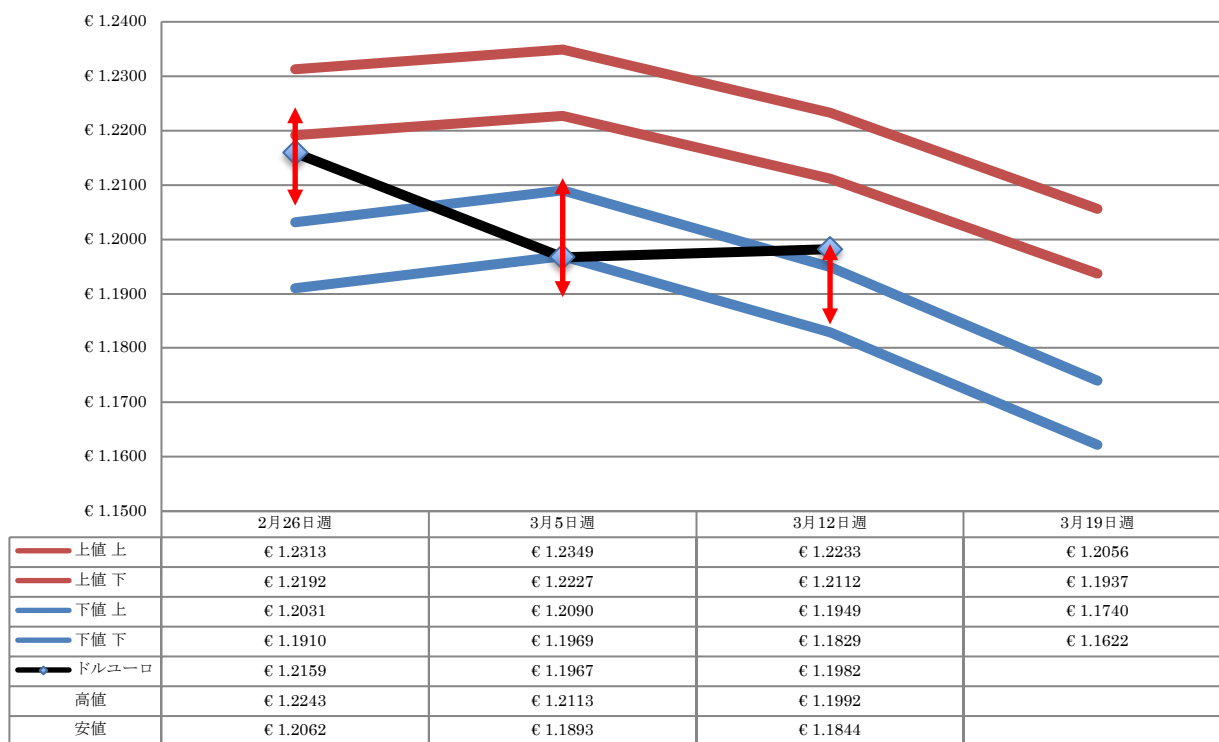
NYダウ



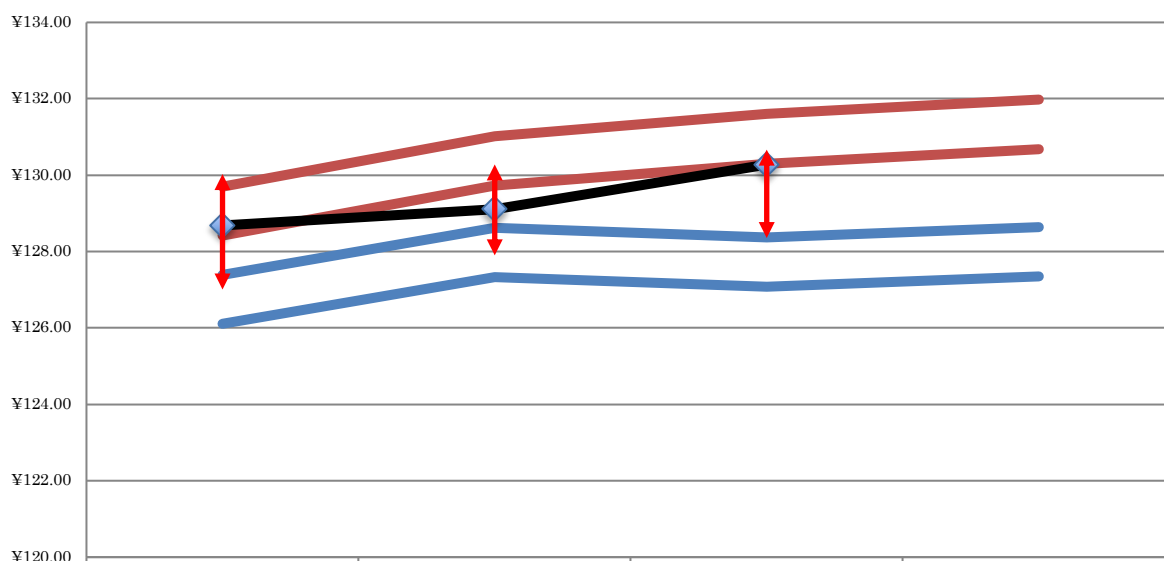
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

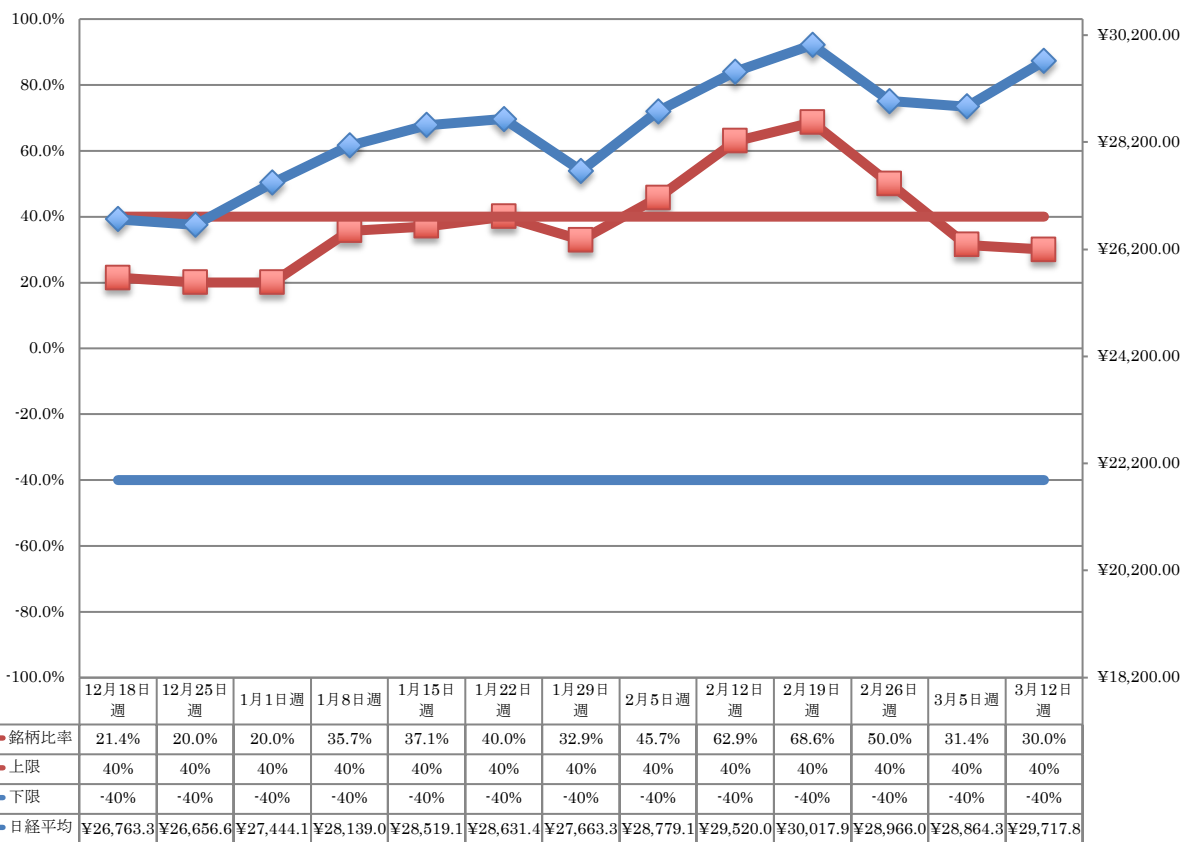


	2月26日週	3月5日週	3月12日週	3月19日週
上値上	¥129.70	¥131.02	¥131.60	¥131.98
上値下	¥128.42	¥129.73	¥130.30	¥130.68
下値上	¥127.39	¥128.62	¥128.37	¥128.64
下値下	¥126.11	¥127.33	¥127.08	¥127.35
ユーロ円	¥128.68	¥129.11	¥130.28	
高値	¥130.02	¥130.28	¥130.67	
安値	¥127.01	¥127.90	¥128.35	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%→2月5日週+45.7%→2月12日週+62.9%→2月19日週+68.6%→2月26日週+50.0%→3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%と31週連続プラス圏継続ですが、上限ゾーンは2週連続で下回りました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、ようやく明確に天井圏形成の段階に入ったことを示しています。先週、5週間振りに上限ゾーンは途切れましたが、このまま下落してマイナス圏まで下落するのか、それとも再度、上限ゾーンを突破して「2番天井」のかたちになるのか、いずれにしてもどのような天井圏形成になるかに要注目です。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。